

指導事例

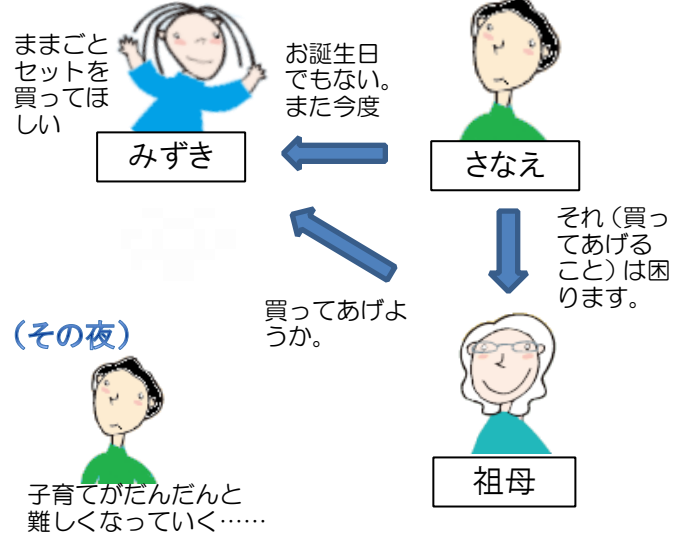
2-8 「がまんする」

ショッピングセンターで、ママごとセットを買ってほしいと座り込む子どもが、母親や祖母との関わりによって買うのをがまんする様子を通して、子どもの成長に必要な「がまん」について考えます。

エピソード

- 母親のさなえは、仕事の都合で、4歳のみずきを、延長保育や祖母にあずけることが多くなっている。
- 休日に、みずきは、さなえと祖母と一緒にショッピングセンターへ出かけ、ほしかったママごとセットを「買って」と言う。
- 「また今度」と伝えるさなえに対し、みずきは「買ってほしい」と座り込んでしまう。
- 「買ってあげる」と言う祖母と、「それは困る」と言うさなえとのやりとりを通じて、「お誕生日に買ってね」と、みずきはがまんする。
- その夜さなえは、今日のできごとをふりかえりながら、子育てが難しくなっていくのを感じる。

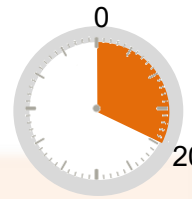
(ショッピングセンターにて)



活動の流れ (90分)

時間	活動内容
20分	◆ 導入 (P2) <ul style="list-style-type: none">▶ あいさつ・自己紹介▶ 参加型学習のルール確認▶ アイスブレイキング・グループ分け▶ エピソードの読み合わせ
60分	◆ グループワーク (P3~5) <ol style="list-style-type: none">① エピソードを読んで気になるところはどこでしょうか？② さなえさんの思いについて、どう感じましたか？③ どのような「がまん」が、成長に大切だと思いますか？
10分	◆ 振り返り (P6) <p>今日の話しあいを振り返りましょう。</p>

導入



20 導入

あいさつ 自己紹介

進行役の自己紹介をする

「みなさん、こんにちは。」
「これから、『子育て』について、みんなで話しましょう。」
「わたしは、・・・・・・・・。」

ルール 確認

参加体験型学習に必要な4つのルールについて説明する

「これからの時間の中で、守ってほしいルールが4つあります。」

「参加」：講座に参加するために、できるだけ自分の考えを話すようにする。話したくないことはパスもできる。

「尊重」：人が話している時はしっかり聞く。自分の考えと違っていても話をさえぎらず最後まで聞く。

「守秘」：この場で聞いたことはこの場限り。他でもらさない。ワークが進むと自分の生い立ちや家庭状況を話す人もいる。安心して話せるように、この場での話は絶対に外にもらさないことを約束する。

「時間」：一人あたりの発言時間を守る。
参加者全員に話せるように、制限時間内に話を納めるよう気を付ける。

アイス ブレイキング

アイスブレイキングを行う

「アイスブレイキングとして〇〇をしましょう。」

- ・参加者の心をほぐすワーク・ミニゲームなどを行う。
- ・緊張や硬い雰囲気を柔らかくしたり、意見を出しやすくしたりする。

グループ 分け

グループをつくる

「5～6人のグループをつくりましょう。」

- ・アイスブレイキングをしながら、グループ分けをする方法もある。（ゲームをしながら並びなおし、端からグループ分けする方法など）
- ・父親や母親、祖父母など、さまざまな人がグループに入るようにすると、グループワークで多様な意見が出やすくなる。
- ・机やいすを動かしてグループをつくる。
- ・一つのグループにできるだけ一人のファシリテーターが入る。

エピソード を読む

エピソードを読む、登場人物の説明など

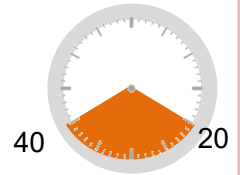
「それでは今日の資料を配ります。はじめにエピソードを読んでみましょう。」

「役割分担してこのエピソードを読みあげてみましょう。」

- ・まず、各自で黙読をしてから読み合わせるのもよい。
- ・朗読はグループごとでもよいし、進行役が全体の場で読み合わせても構わない。

1

エピソードを読んで気になるところはどこでしょうか？



リーダー

エピソードを読んで気になるところはどこでしょうか？ 気づいたことや感想などを紹介してください。

予想される意見



似たようなことがあるという方々

よくある話だと思う

「最近、同じようなことがあった。ちょっと高いものだと、そう簡単には買えないから、がまんするように言った。」

私なら、そのままにしておくと思う

「座り込んでしまったら、私ならそのままにしておくと思う。置いていくようになるけれど、離れたら、子どもの方から寄ってくる。」

みずきちゃんは聞き分けがよいけれど、うちではこうはいかない

「こんなことがよくある。みずきちゃんは、すぐにがまんできたけれど、うちの子はこうはいかない。なかなかがまんできないから、困ってしまう。」

子どもは、親に買ってもらえないと思ったら、祖父母に「買って」と言っている

「子どもは、だんだん親には買ってもらえないとわかってきたよう。親には言わないで、祖父母に会った時に、『買って』と頼んでいる。」

「買えない」と言い聞かせていたら、「買って」と言わなくなった

「前にはあったけれど、いつも、『買えない』と言い聞かせてきたら、『買って』と言わなくなってきた。もうあきらめているのかなあ。」



その他の意見の方々

みずきちゃんは、お母さんにほめられてうれしかったんだろう

「みずきちゃんが、得意そうに顔をまっすぐにあげたのは、お母さんにほめられて、うれしかったからじゃないかな。」

みずきちゃんは、さびしかったのかな？

「いつもは聞き分けがいいみずきちゃんを書いてきた。きっと、さびしさがたまって、『買って』と言ったんだと思う。うちでも、さびしい思いをさせているかもしれない。」

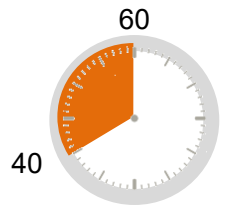


話しあいのポイント

1. はじめの話しあいを、少ない人数で行うと、参加型ワークの抵抗感が少なくなるでしょう。まず、グループのメンバーを2人組（3人組）にわけて話しあい、その後に、2人組（3人組）で出された意見を、グループ全体に紹介してもらおう方法が考えられます。
2. 意見に偏りがある場合は、違った意見を紹介することで、話しあいが深まります。

2

さなえさんの思いについて、どう感じましたか？



リーダー

さなえさんの思いについて、どう感じましたか？
ショッピングセンターの場面や、子育てがだんだん難しくなると感じている場面など、さなえさんは悩んだり、迷ったりしているのでしょうか。みなさんはどう思いましたか？

予想される意見

**「買って」と言われた時、ちょっとしたものなら買うかも**

「自分の子ども『買って』という時がある。おもちゃは、誕生日ぐらいしか買えないけれど、おかしとか、ちょっとしたものなら、買ってあげるかもしれない。いつでもがまんばかりさせていると、子どもがかわいそうな気がするから。」

どこまでがまんさせるのか、いつも迷う

「何でも子どもの言うとおりにしたら、わがママになりそう。でも、子どもにがまんさせてばかりでもダメだと思うから、バランスが難しい。迷ってしまう。」

わたしなら、さなえさんみたいにできない

「さなえさんは、『すごいわ。えらいね！』と言っているけれど、私だったらこんなふうにほめられない。怒ったままだと思う。」

祖母に「それは困ります」と言うのは、むずかしい

「『それは困ります。わがママになりますから。』と言っているが、私なら、言わずに買ってもらうと思う。子どもにがまんさせたくても、断りにくい時がある。自分（親）が、がまんしていることも多い。」

ハンバーグを作ったのは、すごいと思う

「みずきちゃんが、ちゃんとがまんできたから、ハンバーグを作ってあげたんだね。私なら、できないなあ。さなえさんはすごいと思う。」

さびしい思いをさせていることを、気にしているんじゃないかな

「延長保育や祖母にあずけることが多いと書いている。みずきちゃんにさびしい思いをさせているんじゃないかと、心配していると思う。私も、仕事が忙しかった時に、子どもにさびしい思いをさせているんじゃないかと心配になる。休みの時には、話したり遊んだりしようと思っているけれど……。」

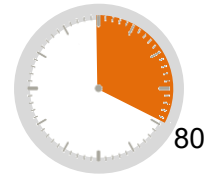


話しあいのポイント

1. さなえさんの思いについては、「買って」と言われた場面、祖母が「買ってあげようか」と言う場面、みずきちゃんががまんした場面、その夜に考えた場面など、様々な場面がありますが、参加者の気になるところから話すといいでしょう。

3

どのような「がまん」が、成長に大切だと思いますか？



リーダー

どのような「がまん」が、成長に大切だと思いますか？
がまんしてほしいこともあれば、がまんしてほしくないようなこと
もありそうですね。それぞれ、どんなことでしょう。

予想される意見


子どもが自分でがまんできるようになってほしい

「子どもは何でも『買って』と言う。少しはがまんしてほしい。大人が注意しなくても、自分でがまんできるようにならないかな。」

テレビや、動画を見過ぎだから、がまんしてほしい

「テレビや動画をよく見ている。もう少しがまんしてほしい。ブロックとか、他のことで遊ぶようにしてほしいなあ。」

兄弟で、がまんしてほしいことがちがう

「お兄ちゃんは、自分でがまんしすぎていると思う。もう少しわがままなぐらいでもいいのに……。弟は、がまんが足りないから、もっとできるようになってほしい。」

成長に応じたがまんがあると思う

「子どもが小さいうちは、がまんが難しいと思う。成長したら、少しずつがまんできるんだと思う。まずは、1回がまんできたら、ほめて、がまんできる回数を少しずつ増やせたらいいと思う。」

子どもが納得できるがまんが大切だと思う

「無理やりがまんさせるより、『なぜがまんしたほうがいいのか』を説明して、子どもが納得してがまんできるようにしたい。」

さびしい気持ちを、がまんさせたくない

「子どものさびしい気持ちは、がまんさせたくない。仕事で忙しいけれど、さびしい時はがまんせずに言ってほしい。時間のある時には、子どもと一緒にいようと思う。」

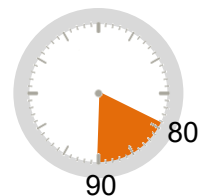
社会的なルールや、人を傷つけるようなことは、がまんしないとけない

「社会的なルールや、人を傷つけるようなことは、絶対がまんしないとけない。」



話しあいのポイント

1. 参加者それぞれから意見を出し合えるようにするため、少し時間（2～3分程）をとって、参加者それぞれが、付箋に意見を書き、それを大きな紙などに貼りながら話しあいを進める方法（付箋を使ったワーク p.7 参照）があります。
2. 意見に偏りがある場合は、違った意見を紹介することで、話しあいが深まります。



ふりかえり

今日の話しあいをふりかえりましょう。



リーダー

ありがとうございました。
最後にみなさんの思いを共有しましょう。
一人ずつ順番に、今日の感想をお願いします。

予想される意見

「いろいろな悩みがあるけれど、みんな一生懸命子育てしているんだとわかって、元気をもらった。」

「他の家庭でも、兄弟それぞれで様子が違うという話を聞くことができた。子どもそれぞれに合った、違う対応をしてもいいんだと思えるようになった。」

「子どものがまんのさせ方、ほめ方を考えられた。」

「それぞれの家の約束事などを聞くことができた。見習いたいことがあった。」

「子どもに次々と指示してしまっている。親が管理しすぎて、子どもががまんしすぎているのかもしれないと思った。」

「子どもがぐずっている時にゆっくり話を聴こうとしたり、うまくできないことを見守ったりすると、時間がかかることが多い。長くなると自分がしんどくなることもあるけれど、がまんしていると思う。」

「子どものがまんについて話しているうちに、自分自身のがまんがたまっていることにも気づいた。ストレスをためないように、気持ちのぬきどころがあったらいいなと思った。」



ふりかえりのポイント

1. ふりかえりでは、ここまでの話しあいをふまえ、エピソードからはなれ自分の身近な事象として捉えて考えていきます。自分ならどう考え、何をするか、多様な考えがあることに気付いたり、自分の子育てをふりかえったりすることになります。
2. テーマが「がまんする」であると確認することで、テーマに沿ったふりかえりをしやすくなります。
3. 多くの参加者とは異なる少数意見があっても、それを否定せず、全ての意見を尊重します。特定の感想に集約させるなど、無理にまとめる必要はありません。
4. 参加者が日頃の想いや考えを話すことができたか、また、気持ちがリフレッシュでき、子育てに前向きに取り組む気持ちになれたかを問いかけ、確認しましょう。

ふりかえりの言葉の例



たくさん意見が出てきましたね。子どもが何をどのようにがまんするといいのか、皆さん悩みながら、毎日を過ごしていますね。共感される場面がたくさんありましたね。その中で出てきた、ほかの人がしていることがヒントになるかもしれませんね。

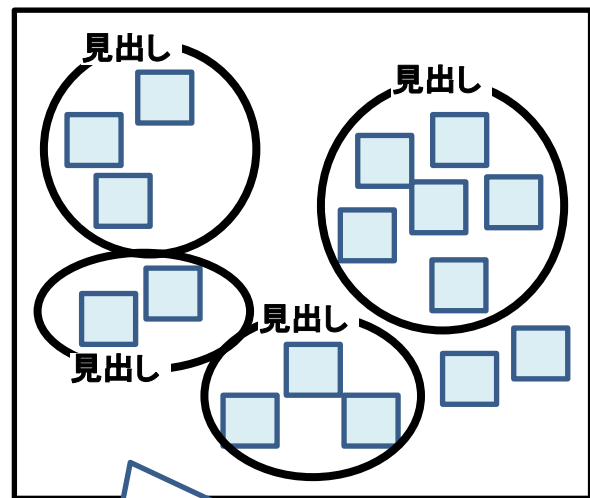
【子どもの発育に関する補足説明】

親学習教材4ページの参考資料には、「Q 1歳の子どもですが、全然、がまんできません。どうすればいいでしょうか。」「A 4歳ごろから、目標に向かってがまんする力が発達します。」と記載しています。参加者の中には、子どもの発育が記載内容と違うことに、不安を感じる方がいることも考えられます。

上記の引用元である、リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』には、「このリーフレットに示した発育の時期は一例です。子ども一人ひとりに、違った発育の姿が見られます。」と記載していますので、それを補足説明していただくといいでしょう。

【付箋を使ったワークの方法（例）】

1. 参加者が、個人で付箋に書きこむ。
(※1枚の付箋には、1つの事柄を書く。
書く言葉は、キーワードなど、短めに
する)
2. グループ内で、参加者が順に、付箋を
はりながら、意見を紹介する。
(※付箋に書いた言葉だけでなく、少し
説明を加えて紹介する)
3. 似た内容の付箋を近くに集め、ペンで
囲ったり、見出しをつけたりしてまと
める。
(※時間や目的によっては、2「意見を紹介する」までで、終えることもある)



模造紙等の大きな紙・台紙となるもの等に
付箋をはる



模造紙のかわりに台紙のように使える、簡易型ホワイト
ボードを作る方法
(付箋をはったり、ホワイトボード用マーカーで書き込
んだり消したりすることができます)

- 例① A4白紙をラミネートする。
それを、2つ(以上)、テープでつなげる
- 例② クリアファイルに、A4白紙をはさむ
はさんだ紙が外へ出ないように、テープでとめる
それを、2つ(以上)、テープでつなげる

※写真は、例①で作成したもの

乳幼児期に育みたい 未来に向かう力

「がまんする」がテーマの本教材では、がまんする力（自制心）について考えます。これは、子どもたちの「未来に向かう力」のひとつです。

「未来に向かう力」とは、自分やまわりの人たちと、折り合いをつける力のことです。例えば、目標に向かってがんばる力（忍耐力、自制心、意欲など）、気持ちをコントロールする力（自尊心、自信、ルールを守るなど）、他の人と関わる力（人の気持ちを感じる力、共感、思いやりなど）などがあげられます。「非認知能力（ひにんちのうりょく）」や「社会情動的（しゃかいじょうどうてき）スキル」とも呼ばれます。

最近の研究で、記憶力や推論する力などのIQで測れる「認知能力」だけでなく、この「未来に向かう力」が、子どもの将来にとって大事であることが明らかになっています。

未来に向かう力は、どうして必要なのか

乳幼児期に「未来に向かう力」が育まれると、それを土台として、小学生のころにはさらに大きく育まれていきます。それによって、難しい問題に挑戦したり、友だちと協力したり、困った時に人を頼ったりする力につながります。また、学習などがわかる力・考える力を育むことにもつながります。

さらに、「未来に向かう力」は、大人になった時に社会を生き抜く力にもつながります。

安全基地（信頼・安心感など）が未来に向かう力の土台になります

安全基地とは、子どもの不安をいつでも受けとめる、安心できる大人の存在です。子どもの心のよりどころのことで、物理的な場所としての基地を作るのとは異なります。

子どもが不安な時などに、体や気持ちを受けとめてもらえることで、安心感や信頼感が生まれます。これを繰り返すことで安全基地ができます。特別難しいことをするのではなく、日常の関わりの中で、育まれます。

いざという時に頼れるところ（安全基地）があることで、子どもはいろいろなことにチャレンジしようという気持ちになれます。安全基地が、子どもの「未来に向かう力」の土台となります。

育むために大切なことは？

0～2歳ごろには、大人が子どもの思いをくみとろうとしながら関わることで、子どもの意欲や自信、気持ちを感じる力など、未来に向かう力の芽が育まれます。

3～5歳ごろには、子どもがいろいろなことにチャレンジしたり、認めてもらったり、失敗しても受け止めてもらえたりする経験を積み重ねることで、目標に向かってがんばる力（忍耐力、自制心、意欲など）や、気持ちをコントロールする力（自尊心、自信、ルールを守るなど）が育まれます。また、気持ちを聞いたり伝えたりする関わりを通じて、人の気持ちを感じる力が育まれます。様々な関わりが、他の人への共感や思いやりにつながります。

資料：大阪府教育委員会「乳幼児期に育みたい！ 未来に向かう力」（令和2年3月）

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiiku/kateikyoiikusien/mirainimukautikara.html>

